

本時のねらい

- ・(2位数) + (2位数) で1の位に繰り上がりのある筆算ができる。
- ・筆算の仕方を考え、自分の言葉で説明することができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・34 + 28の計算の答えを考える際、タブレット上の計算棒を活用することで、簡単に操作しながら、答えを導き出すことができる。
- ・思考ツールを活用することで、筆算の仕方を順序だてながら、自分の言葉でまとめることができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・教科書
- ・ノート
- ・スクリーン
- ・プロジェクター

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	○前時の学習を振り返る。 ○34 + 28の筆算に出会う。	
展開 (35分)	○34 + 28の正しい計算の答えを考える。 ・計算棒を使って考える。 【写真1】 ○自分の考えを説明する。 ・友だちの考えと自分の考えを比べる。 【写真2】 ・正しい筆算の仕方を確認する。 ○筆算の手順を考える。(思考ツール: ステップチャート) 【写真3】 ・本時で学習した手順が、ステップチャートのどこにどんな言葉で入れるのか考える。 ○クラスで1つのステップチャートをつくる。	・34 + 28の計算の答えを考える際、タブレット上で計算棒を動かしながら、正しい答えを導き出すことができる。 ・筆算の仕方を全体で確認する際、スクリーン上で実際に計算棒を動かしながら手順を確認することができる。 ・ステップチャートを活用することで、順序を意識しながら、考えをまとめることができる。 ・全体で共有する際、児童の考え方をスクリーンに映すことで、比較がしやすい。
まとめ (5分)	○練習問題を解く。	・完成したステップチャートをスクリーンに表示しながら計算ができるため、ひとつずつ確認しながら進めることができる。 ・タブレット上で問題を解くことで、学習状況を把握しやすい。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1 計算棒を使って計算の答えを考えている場面

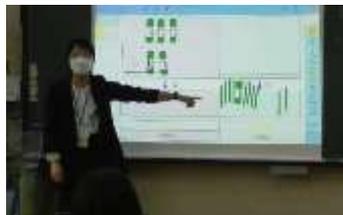


写真2 ICTと具体物を使って、筆算の仕方を全体で確認している場面

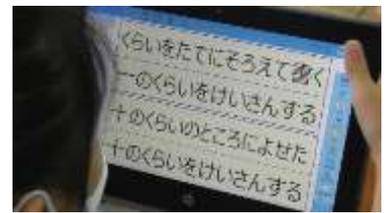


写真3 筆算の手順を思考ツールで整理している場面

児童生徒の反応や変容

- ・計算の正しい答えを導き出す場面では、自分の思考手順を目で見確認しながら計算棒を操作することができるので、失敗を恐れず、計算の答えを考えることができた。
- ・筆算の仕方を言語化するという場面では、思考ツールを活用することで、順序だてながら、自分の考えをまとめることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

思考ツールを使うことで、自分の考えが明確に整理されていくので、考えを言語化しやすいと感じた。